

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献できる名実ともに日本一の美術・デザイン系専門高等学校をめざす
- 1 造形活動を通じて学力と表現力を育み、高度な知識・技能を身に付け、造形文化の発展と創造に寄与する態度を育成する。
 - 2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。
 - 3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「文化都市大阪」の発展に寄与する。

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「プロデュース力」、「発信力」の育成

- (1) 造形活動を通して、造形表現に必要な「確かな学力」、「プロデュース力」、「発信力」の育成に取り組む。
- ア 1年次より、ポートフォリオ等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「家庭学習強化週間」等を通じて自学自習の習慣を身に付けさせる。学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。
- イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。
- ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通じて、主体的・対話的で深い学びを充実させ、「プロデュース力」、「コミュニケーション力」、「発信力」の育成を図る。また、読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。
- エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修を充実する。
- ※ 授業アンケートにおいて「授業内容に興味・関心をもつことができたか」について肯定的回答（平成29年度78%）を、2020年度には90%に近づける。
- ※ 「発信力」の育成について、卒業時にはすべての領域の生徒がICT機器を活用するなどして、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。授業でのICT機器活用（平成29年度は2,492時間）を毎年3%引き上げて、2020年度には2,723時間に増加させ、その後も維持していく。

2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人を育成する進路指導

- (1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。
- ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、文部科学省の専門高校の振興方策である「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の指定獲得をめざす。
- イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度等を「進路情報等に関するアンケート調査」にて検証し、進路指導の充実を図る。
- ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。
- ※ 進学希望者講習への参加者（平成29年度129名）を平成31年度には150人に近づけ、2020年度以降も維持する。
- ※ 造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、部活動加入率100%（平成29年度入部率110%：兼部による）を維持していく。また、「高校展」等のコンクール出品数（1、2年生の出品率50%）を維持していく。2020年度においても現在の水準を維持する。
- ※ 部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。
- ※ 卒業時に行う「進路指導等に関するアンケート調査」において満足度が平成30年度は90%となるようにし、2020年度においても維持する。

3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校としての役割

- (1) 府立学校唯一の美術系専門学科校として、センター的役割を果たしていく
- ア 美術系専門学科校として、施設設備・教員力・美術系大学等との連携を生かした活動を促進する。校内・外における生徒作品等の展示や、各種コンクールへの出品を通じて、その成果を発信する。
- イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、活動の拡充を図る。
- ウ 府立高校で唯一の美術系専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。
- ※ 校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を図る。2020年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修も含め5回以上実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「生徒回答」では、ほとんどの「設問内容」で、肯定的回答が昨年度を上回った。ただし、「学校へ行くのが楽しい。」は74%で3%減。1年生は83%であるのに対し、3年生は63%と学年による差が20%もあり、開きが大きい。理由として、進路への負担が反映していると考えられる。</p> <p>また、今年度「設問内容」を変更して追加した「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる。」は60%しかなく、担任以外での相談体制が十分でないことが読み取れ、次年度に向け教育相談体制の充実を図る。</p> <p>「保護者回答」でも、ほとんどの「設問内容」で昨年度を上回った。「学校の施設や設備については満足している。」のみ3%減少しているが、88%とあり、十分であると考えが、今後も学校施設の改善を進めていく。</p> <p>また、「子どもは、授業がわかりやすく楽しい」と言っている。」は、2%上昇したが、まだまだ十分ではない。次年度に向け、各教科さらに授業改善を図る。</p> <p>前年度の課題であった「国際交流」関連については、外国からの訪問やイタリア海外研修の復活等により、生徒回答・保護者回答とも今年度は改善した。</p>	<p>第1回（平成30年6月29日（金）15:00開催）</p> <p>本校の広報活動等について</p> <p>私自身、港南造形高校が取り組んでいる「大和川陶板ロード」の取組みに参加している。陶板制作のための設備や優れた指導者が整っている学校であることを、周囲にアナウンスしている。</p> <p>大阪府北部の中学校にも宣伝はしているのでしょうか？4年ほど前のことになるが、進学相談した時、中学校はあまり港南造形を知らないという印象だった。私も北部だが、中学校の先生は知っていた。しかし、中学校の先生は普通科の学校へ進学を進める傾向にあるように感じた。天王寺近辺の中学生も、港南造形高校は少し遠いという印象を持っているようだ。極めて専門性の高い高校であるので、本人が迷われている場合は中学校の進路指導として港南造形高校への進学は勧めない。また、費用的にも一般の高校とは違い材料費等が必要なことを保護者に伝えるようにしていた。</p> <p>港南造形は学校説明会に参加したとき、中学3年生以外の生徒も一緒に参加していた。とても良いことだと思うので、もっとアピールしてもいいと思う。</p> <p>私自身も陶芸教室でお世話になっており、港南造形高校はとても身近な存在。テレビや新聞に取り上げられることがよくあるので、とても嬉しい。地域の催しにも、生徒さん達に参加してもらえたらと思う。</p>

府立港南造形高等学校

	<p>学校見学会に来た時、生徒会の生徒さんがとても楽しそうに取り組んでいる姿を見て、“生徒が輝いている”と感じた。港南造形高校のとてもいいところだと思う。</p> <p>第2回（平成30年11月5日（月）15:00開催） 今年度の活動について</p> <p>港南造形生は「すみのえアート・ビート2018」大和川の陶板ロードなど色々と活躍しているが、そのことがメディアに取り上げられることはいいことだと思う。</p> <p>校内に広報グループを作ることは良いと思う。先生方がそれに取組むことは、学校にとってとても良いこと。広報グッズも充実していて素晴らしい。費用はかかるが工夫をして、効果的な広報活動ができています。また、遅刻数減少の取組みについても、丁寧に行っているところが良い。</p> <p>港南造形高校のアピールポイントとして、実際に作家として活動している先生方に触れること、身近にいることはとても良い点だと思う。外部に対して、「港南造形って何ができる学校？」ということをもっと宣伝することが大切である。例えば、学校ホームページに先生方や先生方の作品を掲載するなど、造形の専門分野をもっと詳細に発信してはどうか？</p> <p>イタリアへの研修旅行を再開するのは良いことだ。最近のヨーロッパの現状は、フランスのテロ直後とは違い、ずいぶん穏やかな雰囲気になってきている。</p> <p>卒業制作展は入場者数を増やすのが難しい課題。生徒や保護者、知人は来ていただけると思うが、一般の方が入場していただけるかどうかポイント。その仕掛けが必要。</p> <p>第3回（平成31年3月19日（火）15:00開催） 今年度の自己評価で、6項目で◎は、良い成果が出ている。</p> <p>学校の知名度を上げるために、校名等がデザインされた袋、鞆（エコバックのようなもの）を作成してはどうか。（校名、キャラクター入り）</p> <p>住之江区との連携の中で、港南造形の制服・姿を見せることを続けており、保育園との交流等を続けていってほしい。生徒会主催の清掃活動を、地域と連携した清掃活動にしてみてもどうか。</p> <p>「港南展」、多くの来場者があった。さらに多くの人に見ていただきたい。特に、立体作品は、本物を見てほしい。</p> <p>卒業式の動画では、多様な個性を観た。また、プレス力は大きいので、新聞・テレビ等の取材を受けることを、今後も続けていってほしい。</p> <p>作品のプロセスを、Webで公開してはどうか。卒業制作展の「プレゼンコンクール」もWebアップしてほしい。</p> <p>タブレット導入・ICTの活用、外部講師招聘、地域連携等、高等学校に現在求められていることが全て進んでいる。今後も、卒業生が戻ってくる学校、“循環する学校”を続けていく。つながりが強み。</p> <p>災害対策も、学校の宣伝に使っていくとよいのでは。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「発信力」の育成 創造的活動を通して、「確かな学力」と「プロデュース力」	(1) 造形表現に必要な「確かな学力」、「プロデュース力」、「発信力」の育成 ア 学力診断テストの活用 イ 実技力の向上とICT機器の活用 ウ 言語活動の充実 エ 美術文化への理解	(1) ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。難易度の異なる学力診断テストを、年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を理解させる。 イ 造形活動に必要な「圧倒的な実技力」を身に付けさせるため、実技講習の充実を図るとともに、調べ学習等を積極的に採り入れるために、ICT機器の活用を促進する。 ウ 読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を拡充する。 エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた美術文化への理解を深める。	(1) ア・学校教育自己診断における学習取組度 85% (平成29年度は80%) イ・授業のICT機器利用3%増。(H29は2,492時間) ウ・学校教育自己診断における発表機会の肯定的回答80%以上(平成29年度は80%) エ・外部講師による講座10回実施。(H29は14回) ・海外、国内の作品に触れる機会を設ける。(5回実施 H29は8回)	(1) ア・学校教育自己診断における学習取組度 84.1%となり目標に近づいた。(△) イ・授業のICT機器利用は、造形科・英語科・理科等の活用が進み、次年度に向け改善が進んでいる。(○) 約3,000時間 ウ・学校教育自己診断における自分の考えを発表する機会の肯定的回答は86%となった。(◎) エ・外部講師による講座は、10回を超えた。(電通、マーベル、日本工芸会、染色家協会、他) イタリア研修も復活し、マーベル、日本工芸展、他、海外、国内の作品に触れる機会(12回)が激増した。(◎)

府立港南造形高等学校

<p>2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人を育成する 進路指導</p>	<p>(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。 ア 高一大・専連携講座や講演を充実「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」獲得に向けた準備 イ 生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。</p>	<p>(1) ア 大学・専門学校の講師等による「美術造形の学びを将来の職業に生かす」ことをテーマにした講演を実施する。さらに、「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」獲得に向けた準備を進めていく。 イ 生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として進路実現に向けた進路指導體制の強化。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導が個別の進路決定に役立ったかを調査し、その分析を進路指導の充実に活用する。部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>(1) ア・講座参加生徒数 500 名以上。 (H29 は 532 名) イ・進学希望者講習の受講者数 132 名以上 (H29 は 126 名) ウ・進路指導満足度 80%以上。 (H29 は 83.6%) *H28 は未実施 ・希望進路達成率 90%以上。 (H29 は 93.1%)</p>	<p>(1) ア・マーベルの 1 講座のみで 200 名を超え、講演等、のべ参加生徒数 500 名を遥かに超えた。(◎) イ・進学希望者講習の受講者数は昨年同様で約 170 名 (1 年 80 名、2 年 50 名、3 年 40 名) であった。(○) ウ・進路指導満足度 92%となった。 東京藝術大学に 2 年連続の現役合格者が出た。(今年度は、最難関の絵画科、油画に合格した。) 京都市立芸術大学を始めとする国公立大学への合格者も 2 桁となった。(◎) ・希望進路達成率も 90%以上を継続。「定時退庁日」、「ノークラブディ」は、緊急案件対応を除いて、確実に実施できている。(○)</p>
<p>3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校唯一の美術系専門学科校として、センター的役割を果たしていく ア 広報活動の充実 イ 学外展への積極的出品参加を促進 ウ 学校の専門施設設備の充実、海外交流の促進</p>	<p>(1) ア 美術専門学科設置校としての教育資源を活かした活動を HP で発信し、美術教育の振興を図るとともに、校内・外の展示を充実する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加することにより、さらなる意欲・実技力の向上を図る。 ウ 専門施設設備の維持管理、更新と充実により、生徒の造形活動の伸長につなげる。また、外国の学校との交流の回数を増やし、国際理解を深めていく。</p>	<p>(1) ア・HP の更新 100 回以上 (H29 は 98 回) イ・出品者数の維持 (高校展 260 名以上) (H29 は 284 名出品) (芸文祭 210 名以上) (H29 は近総文大阪大会開催のため芸文祭は中止) ウ・計画的に施設設備の維持更新を行う。 国際交流を 2 回以上実施。</p>	<p>(1) ア・HP の更新は、隔日程度で実施し、100 回を遥かに超えている。(◎) イ・出品者数の維持 高校展 361 名 (優秀賞 16、奨励賞 70) 芸文祭 244 名 (優秀賞 11、奨励賞 21) の出品数であった。 今年度の「芸文大賞」を受賞した。 また、全国高等学校版画選手権大会 (版画甲子園：新潟県・佐渡市主催) で佐渡市長賞を受賞した。(◎) ウ・8 室へのエアコン設置等、学習環境の改善ができた。 国際交流は、海外より 4 校の来校、イタリア研修復活等により、十分以上拡充 (6 回) できた。(◎)</p>